

## 野田弘英教授退任記念号の発刊に寄せて

野田弘英教授は、2011年3月に本学を定年退職されました。先生は1997年4月に経済学部および大学院経済学研究科の専任教員としてご着任され、14年間にわたり本学において教育・研究活動に携われました。また、2002年4月から2年間は本学の経済学部長を務められるなど、大学や学部の運営に関しましても大変なご尽力をいただきました。ご在職中の先生のご貢献に対し、心から感謝を申し上げたいと思います。

野田先生は1963年に九州大学をご卒業後、同大学大学院経済学研究科に進学され、同研究科博士課程を1968年3月に単位取得満期退学されました。また、1984年には同大学から経済学博士の称号を授与されました。

九州大学大学院経済学研究科を御退学後は、同大学の経済学部助手を務められ、1969年4月からは熊本商科大学商学部専任講師に就任されました。その後、1977年4月には埼玉大学経済学部助教授、1986年12月には同大学教授になりました。この間、各大学では銀行論や金融論などの講義を御担当されました。

先生のご研究は、一貫して、金融資本の構造分析を中心に展開されたように見受けられます。ルドルフ・ヒルファーディングの『金融資本論』の批判的な研究の上に、それを独占成立期の過渡的理論として位置づけ、さらにコーポレート・ガバナンスとの関連を考察されました。また、金融資本論に関連して、貨幣論や信用論などの分野においても研究をなさいました。これらの理論的な研究の基礎の上に立って、実証的な分野においても、成熟経済における金融危機等の分析などの業績をあげられました。

本学ご在職中の野田先生は、経験豊かな大学人として、教育、研究、大学運営等にかかわる様々な委員を務めるなどのご活躍をなされました。特に、2002年4月から2年間は学部長として、新たに国際経済学科を設置した直後の難しい過渡期にある経済学部の学部運営を、熟慮と寛裕の精神で担われました。

私自身は実は野田先生に関して、理非曲直に非常に厳しい方と言う印象を抱いておりましたが、最近、先生のお人柄をよく知る同僚から話を聞き、印象を少し修正するのを感じました。先生は仮に激することがあったとしても、それは余程のことがあった場合であり、平生は至って穏やかな内剛外柔のお人柄であるというのが同僚の言でした。

先生が学部長をなさっていらっしゃる時期は、経済学部にとっても難しい時でありましたが、同時に先生の生活の私的な場においても御苦勞のあったことを仄聞致しております。そのような状況においても先生は粛々と学部長のお仕事を遂行なさっていたことに対し、経済学部のすべてのメンバーは感謝と尊敬の念を持っております。

野田弘英教授退任記念号の発刊に寄せて

先生はまた、学生の教育にも情熱をもって取り組んでおられました。特に、ゼミナールに関しては、毎年、「野田ゼミ小論文集」を作成したり、また全日本証券研究学生連盟主催の「証券ゼミナール大会」に参加するなど、学生の学習における目的意識を明確にすることにより、活気のあるゼミ教育を展開されたと伺っております。

学部有志主催の野田先生の送別会は2011年3月11日の夕方に予定されておりました。しかしながら送別会は中止となり、かわりに野田先生とは大学の体育館の同じ床の上で一晩明かすことになりました。明け方、十分に眠ることが出来なかった先生が、「僕の送別会は忘れがたいものになったね」と飄々たる表情で一言おっしゃるのを聞きました。

野田先生が、今後ともますますご健勝にて、さまざまな形でご研究や後進の指導を継続され、ご活躍されることを信じ、お祈り致しております。

2011年12月

経済学部長 手塚 真